職種転換に注意を

坑内外に分れて賃金集会

あたらしい賃金闘争をすすめるにあたつて、いろいろな問題を大衆討議のなかから明らかにしつつ、具体的な要求内容を討議するため、いま各山元では賃金討論集会をひらいているが、三池では二十二日炭労本部から直江労働部長ら三名を迎えて、坑内・坑外の部にわかれ両会場に約一四〇名が参加して討論集会をおこない。不況下の闘争は……など活ばつな討議がかわされた。

拳つて赤字宣伝

坑内関係では会場を三川集会所にもうけ、各支部から七十名が参加した。

まず、われわれをとりまく諸情勢や討論集会の内容について説明がおこなわれたが、各項目にわかれての主な意見を記してみると。

まず徹底した情宣

○ 赤字宣伝を非常に巧みに会社はやつている。新聞に発表したり例えば坑内では職制を通じてやわらかく笑いながら、クギ一本でもとりあげて資材面から不況を宣伝している。

○ 組合が会社の宣伝をとりあげてアッピールしているが、いまの情宣の不徹底さからみれば、逆に組合自身が会社の赤字を宣伝しているようになつているようだ。情宣については十分注意しなければならない。

○不況下での闘争方法を明確にして、闘いにかかつてもらいたい

○ 会社は赤字宣伝をやつているが、炭労としても十分情宣活動をやり数字にたいする対策をやらねばならない。

○ 組合が会社に数字で立向うのはむしろ会社のペースにまきこまれるばかりだ。

○ 数字の対策はできないという立場に立つて、それに通ずる情宣対策をおこなえ。

やり難くなつた職場闘争

○ B級作業者はいままで平均一・七枠はつていた。機械化のなかでこれを二枠はつてくれということがでてきた。こんな実情で職場闘争が非常にやりにくくなつた。それは、交渉をやつても係員や係長は権限がないと逃げ、どんな小さなことでも執行部と坑長、副坑長の交渉においこんでいる。これで実際上組合の機能をマヒさせている。一方、こういうことでいまで三、四日ですんでいたのが二三カ月かかるようになつた。これでは職場闘争の意義がなくなつてしまう。何とか対策がぜひ必要だ

○ 組合員は五、六千円はいつも不足するという。二千円の賃上げは諒解している。全額必ずとつてもらいたい。

○ 組合員のなかでは職種転換で収入増をはかつている。間接部門から直接部門へ、採炭の場合では悪い切羽からよい切羽へうつることで賃上げよりも収入が多くなるこういうことで賃上げに力を入れぬようになり、闘争に大きく影響している。補償給の引上げしかこれにたいする対策はないと思う。

○ 時間外は現在基準内賃金の三分の一を上まわつている。昭和二十五年ごろは公出、残業を嫌がり逃げまわつていた。いまは逆に残業よこせを闘つている。これは生活が困窮しているからだ。二千円はぜひとつてくれ。これをとることで将来残業、公出をしなくともよい賃金に移行してもらいたい。

露骨になつた職制

坑外関係は組合本部大会議室で七十一名が出席して討議した。

○ 港務所では組合が職場闘争でサービス業務を拒否するから、港に船がこなくなつたと会社は宣伝している。三作では、ある製品をつくる場合、もつと能率をあげてもらわねば赤字は治らないと宣伝している。

○ いままで委員会報告を一時間以上やつていたが、さいきん係長は、一時間くらいで済ましてくださいといつている。職場宣伝などでも職制が入つてきて、早くやめてくださいという始末である。

○ 職場交渉で現場の係員、係長は上部に権限があると逃げている

○ 職場要求として交渉するよりも苦情処理で片付けてくれと係長はもちかけてきている。

○ 職制が、自分の方のことはとてもよくいい賞めるが、他の方のことはとても悪口をいう、方別のエゴがでるように仕向けてきている。

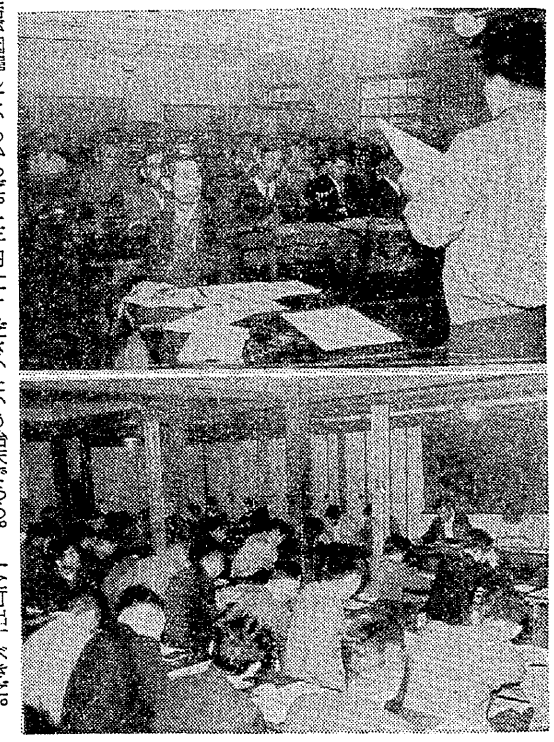
○ 職員昇級だが、会社はとてもロコツにでてきている。特定の人を呼びだしたり、呼ばれた人は不必要にペコペコ頭を下げたりして一般の人に不安をいだかせている

職制の廃止についてここらで強力に打出すべきだ。

○ 賃上げ額は少い、もう少し要求しないと生活がやつていけぬ（女性）。同じく女性からの発言では期末手当の配分の仕方を変更してくれ、もつと多くしてもらいたい。同一労働同一賃金の建前からも保護坑夫は廃止すべきだ。同じ仕事をしているのに差別するのはおかしい。

……など活ばつな意見がつぎからつぎへと発言された。

この集会は各地で行われているが中央に集約し、このなかから具体的な要求内容がうちだされることになつている。



三鉱賃金討論集会、上が坑外

できたぞ バツクネツト

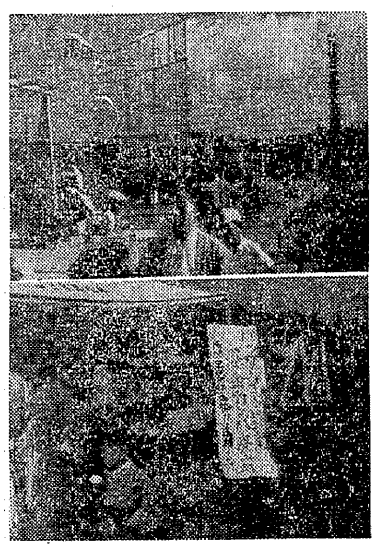
PTA・地域・主婦会の労実る

天道校

【天道発】天道小学校（PTA会長堀直氏）では長年の悲願であつたバツクネツトの建設が完成し、秋晴れの十九日運動会とともに披露をおこない、全校挙げてよろこびにひたつた。このバツクネツトは総工費十三万三千五百円で、大牟田市内小中学校のなかでもただ一つといわれるもので、名実ともに立派なものである。

二十六年頃からバツクネツトの建設は話題にのぼり、代々その意志はつがれて来たが、あまりも多額にのぼる工費のため実現しなかつた。それは一、二六二名の児童の八〇%までが三鉱労組宮浦支部組合員の子弟であり、残り二〇%も合成、東圧労組の子弟などで、PTAの懐具合からもうかがえることである。しかし、本年度にはいるやバツクネツトの建設が積極的に論議され、ついに建設に踏み切り六月中旬PTA、地域分会、主婦会の三者でバツクネツト建設委員会（委員長那須俊春氏）を発足し、建設にとりくんだのである。だが、発足とどうじに役員の頭からはなれないものは、資金の調達であつた。そのことを何よりもよく物語るのは、運動会当日まで校庭に資金カンパの売店をだし、努力されたことである。映画館と入場券の契約をし、そのリベートやるときは独自に映画を上映して資金をあつめた。さらにPTA一戸当り五〇円の任意カンパという協力もあつて、この悲願達成となつたのであるが、なかでも地連協のはたした役割は大きいものである。

このバツクネツトをつうじ、子供たちが平和に幸せに学ぶ学園や、また地連協によせられる期待の大きからんことが念願されるものである。



【写真】上は新設されたバツクネツト、下は運動会当日校庭に出された資金集めのための売店

日中の国交回復

八幡で県民大会おわる

日中国交回復国民会議と原水協の主催で二十八日の中央国民集会まで、全国各地で台湾問題にたいして大衆的な宣伝と、日中関係打開と核武装禁止国際共同行動の活動をむすんだ運動が展開されているが、九州では十月十九日（日）午後一時から八幡市の八幡製鉄労働会館に約八百名があつまり「日中関係を打開する県民大会」をひらいた。

大会に県下各労働組合の代表をはじめ日中友好協会、佐賀、鹿児島熊本の各県から国民集会に参加する代表たちが出席した。三鉱労組からも山下教宣部長らが出席したが、大会は「日中国交回復でアジアの平和を守ろう」の中心スローガンのもとに警察官職務法改悪など十二のサブスローガンをかかげてすすめられた。

訪中代表団として中国各地をまわつてきた参議吉田法晴氏の帰朝報告と、国民運動調査報告と、国民運動に参加しよう(2)日中国交回復をしよう、(3)ミサイル闘争に支援しよう、(4)職場地域で集会を通じて日中関係の友好座談会をひらくとの四つの提案があり満場一致で提案を諒解した。このあと総評、日中友好協会、婦人団体学連、原水協、平和委員会、鉄連貿易促進委員会、福教組、全労から意見発表があり〃日中貿易・漁業の即時打開と国交回復に関する決議〃〃職職法改悪反対〃〃台湾問題に関する決議〃〃賃上げ、最低賃金制度〃〃ILO条約批准〃〃勤評反対、民主教育擁護〃〃合理化・首切り反対〃と七項目の決議をおこなつた。

研究討論会

三川で月二回開く

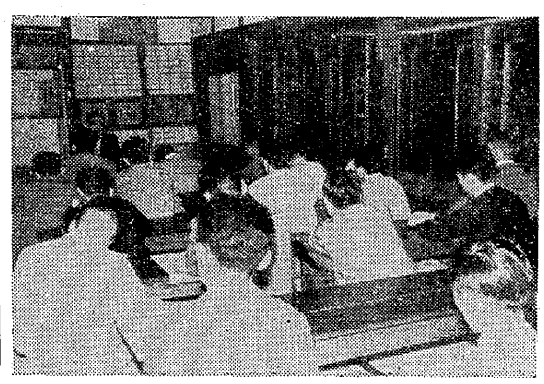
三川支部ではこのたび三交替者と常一番者にわかれて、研究討論会をもよおした。毎月二回あてこんどはおこなうようにしているが、月曜日は三交替、水曜日は常一番の順でおこなう。

この研究討論会はさる十六日に第一回の会をもち、この日は三交替関係、常一番関係は二十二日午後五時から二十数名があつまつてひらいた。

司会と講師をかねて谷端支部長があたつたが、同支部長はさきごろ杵島を訪れたので、あの長い闘いをやつた杵島の仲間たちのそのご見聞をかたり、この中からテーマをひきだして討論に入つていつた。

宮浦で情宣と学習会

宮浦支部では二十一日より甲万機械、採炭を皮切りに、職場情宣と学習をかねて午後三時半から組合二階で毎日集会をもつている。緊急事態に直面して闘う態勢がいそがれるとき、情宣の徹底とお互いの討議の中から闘う心構えをつくるようにしている。学習は会社の不況宣伝と組合の対策や、いま全国的に問題になつている警職法改悪などがテーマとされており、毎日一番方昇坑後、二分会づつにわけておこなわれている（写真は二十二日におこなわれた二分会）



外来の情宣

本所全委員がオルグに

非常時体制確立のためいま各支部では情宣に総力を集注して、職場地域の懇談会、情宣大会と連日夜遅くまで活動しているが、本所支部では委員を編成して外来分会の座談会にのり出そうとしている。

この委員編成の外来座談会は昨年一回と、ことしに入つて機械化闘争のときに一回やつてきたが、非常に実績をしめし好評だつた。

本所支部には外来分会が二十九校区あり、委員三人が二校区を担当するようにしている。執行部は一人で四校区を受持つている。各校区にオルグとなり班会議に出席して、緊急事態についての内容や教宣をおこなうわけだが、大体一週間ていどで全校区が終了するみこみである。

情宣のほか分会員や主婦からいろいろ質問もでてくるので、勉強もしなければならず、また他分会の様子もわかつて交流の実績もあげることとなり、非常に効果的である。こん回は二十七日からはじめる予定になつている。

社宅のテレビの騒音防止について

さいきん三鉱の社宅にもぼつぼつテレビが普及してきましたが、これに伴つて、まだテレビにはとても手が届かず、もつぱらラジオ聴取でがまんしている大部分の社宅の人たちから、テレビの騒音について頻々と訴えがでています。

このことについては前にも一度本紙で触れましたが、テレビの騒音防止器は五百円たらずのものですから、テレビをもたぬ他の組合員の人々の迷惑を考慮して、ひとつ是非ふんぱつして騒音防止器をとりつけていただくよう重ねてお願いします。

働く者の団結は、こういうささいなお互いの思いやりのなかから結ばり強まつてゆくと思います。

訂正

前号三面で荒尾の教育委員藤末克巳氏（政治局員＝三川）が肝臓ガンで入院しているとの記事がありましたが、肝臓ガンは誤りでしたが肝臓が悪いだけで、来春ごろには元気な姿で退院されるものと思われています。

ちくら談義

比較してみて

大牟田と荒尾は何かと比較される。それは三井に対する市当局や議会がどのように動いているかで違つているからである。

まず鉱産税で比較されたが、もつと手近に比較できる問題がある。荒尾の労働会館には、荒地評、教組、労働金庫などそれぞれの事務所がピシヤリと間借りし掃除万端ゆきとどいている

一方大牟田は労働会館に事務所ができるまで教組を入居させるということで話を進めたところ、会社側の労働会館運営委員（大手事業所の総務課長がほとんど）は、これに横ヤリを入れ運営委員会を一日流会させ、やつと十二月二十日まで諒解という、まつたく三井は大牟田で横暴を極めている

マージャン病

このところ会社の中堅幹部にマージャンが流行病となつている。よく世間話に三井と三菱の比較がなされる。

三井は労務政策で生産を進めるということである。

赤字、赤字と会社がいうが、このへんのことも考えて、その責任がどこにあるかをはつきりするときが来そうだ。下級幹部が上役のキゲンをとつてマージャンにつきあい、給料が少かつたり、夜勤ししてあくる日のコンディションの悪いのも赤字につながりそうだ。

勝敗は如何に

巨人か西鉄か日本選手権試合は巨人三連勝のあと、西鉄が世界球史にはじめての四連勝を遂げ、地元九州ファンの夢を実現させた。

この試合中平和台に直接出かける人、ラジオ、テレビにかじりつく人、大牟田の中央通りは人通りがなくバスが通るだけに寂いた。しかし、もつと被害者がいるのは支部の執行部で坑内から試合のスコアを聞いてくるとき「わかりません」といえば「そつで執行部がつとまるか」とのお叱り。

この試合のように、労働争議に関心をもち、労働者が勝つか経営者が勝つかと全国民が考えてくれるならばとは、スポーツを理解せぬ者ばかりの弁ではない。